主催：京都府教育委員会 / 公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター

企画展／芝山古墳群

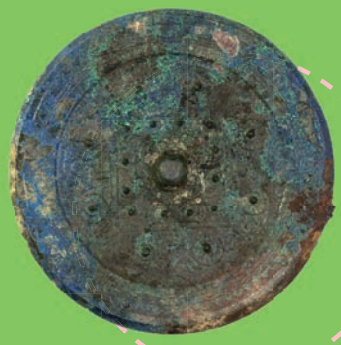
京都府内の発掘最新情報！

発掘された京都の歴史2023

京都府内の蛇行剣が勢ぞろい！

重要文化財と同じ形!?

何に使う物？



2023
8.5(土) ➤ 8.27(日)
向日市文化資料館

2023
9.7(木) ➤ 9.18(月)
ふるさとミュージアム山城
（京都府立山城郷土資料館）

2023
10.7(土) ➤ 11.12(日)
ふるさとミュージアム丹後
（京都府立丹後郷土資料館）

展覧会の開催にあたって

本展覧会は、府民の皆さまをはじめ、多くの方々に埋蔵文化財への興味や関心を持っていただき、遺跡や遺物に親しんでいただくことを目的に、京都府教育委員会と公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターの共催で開催しています。

今回の展覧会は、発掘調査の速報展示と企画展示の２部構成で実施します。速報展示では、令和３・４年度に京都府内で実施された発掘調査の成果を出土遺物や写真パネルなどを用いて紹介します。また、企画展示では、「芝山古墳群」と題して、新名神高速道路建設に係る６年間にわたる芝山古墳群の調査成果を周辺の遺跡との比較を通じて紹介します。

展示にあたっては、より分かりやすく、親しみやすくなるように心がけましたので、いにしえの世界をお楽しみください。

結びにあたり、今回の展覧会に協賛いただいた向日市文化資料館をはじめ、様々な御協力を賜った関係機関に対し、深く感謝いたします。

令和５年８月

京都府教育委員会
公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

凡　例

1．本図録は、「発掘された京都の歴史 2023」（向日市文化資料館：令和５年８月５日（土）～８月 27 日（日）、ふるさとミュージアム山城：同９月７日（木）～９月 18 日（月・祝）、ふるさとミュージアム丹後：同 10 月７日（土）～ 11 月 12 日（日）開催）の展示図録です。

2．展示資料は、主催者及び府内各機関が主に令和３・４年度に発掘調査・整理報告作業を実施した遺跡・遺物及び平成 27 年度から令和２年度に調査を実施した芝山古墳群を対象としています。

3．本図録に掲載した資料は、展示品のすべてではありません。また、展示の都合により展示品と図録掲載品が異なる場合があります。

4．本展覧会は、令和５年度国宝・重要文化財等保存・活用事業費補助金（地域の特色ある埋蔵文化財活用事業費）を受けて実施しています。

5．本展覧会にかかる資料調査、図録作成、展示資料及び写真等の借用にあたっては次の機関から御指導・御協力をいただきました。
（順不同・敬称略）　与謝野町教育委員会、綾部市教育委員会、南丹市教育委員会、京都市考古資料館、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所、長岡京市教育委員会、公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター、八幡市教育委員会、城陽市教育委員会、木津川市教育委員会、同志社大学歴史資料館

6．本図録の掲載写真は、主催者撮影のもののほかは、上記の各教育委員会及び各機関から提供を受けたものです。

速報展示

発掘された京都の歴史 2023

縄文時代

平遺跡　京丹後市丹後町平　（公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター 調査

平遺跡は、日本海に面する砂丘上に立地する縄文時代の集落遺跡です。昭和 38 年度に同志社大学、昭和 40 年度に帝塚山大学による学術調査が行われ、縄文時代草期から晩期にかけての土器や石器が数多く出土しました。当センターでも過去４回の発掘調査を実施しています。

令和４年度の調査では、古墳時代の遺物も含む２次堆積層から、縄文時代前期と後期の土器、石斧、石鏃、叩き石などが出土しました。

縄文時代前期（上段と下段左）と後期の土器（下段中・右）

石斧

弥生時代

日吉ヶ丘遺跡　与謝野町明石　与謝野町教育委員会 調査

新たに発見された外側の環濠
（与謝野町教育委員会提供）

日吉ヶ丘遺跡は加悦谷を流れる野田川が形成した段丘上に立地する丹後地域を代表する弥生時代中期の環濠集落遺跡です。豊富な鉄製品の出土や、国史跡の方形貼石墓が知られています。令和４年度の調査は、遺跡の東端部で行われ、平成 30 年度の調査で検出された環濠の外側から、新たな環濠が見つかり、少なくとも集落の一部が二重の環濠で囲まれていることが明らかになりました。環濠内からは弥生土器のほか、石器・石製品も出土しています。

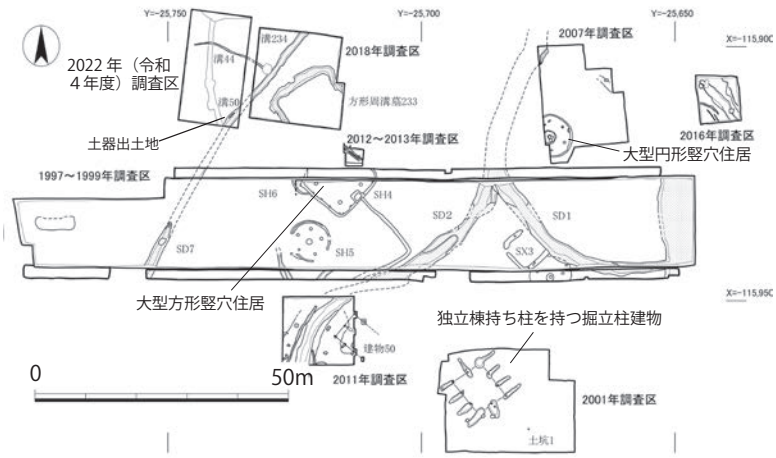
石器・石製品（石鏃、大形石包丁、玉原石ほか）

弥生時代

大藪遺跡（おおやぶ）　京都市南区久世殿城町　（公財）京都市埋蔵文化財研究所 調査

大藪遺跡は、桂川右岸の沖積地に立地する弥生時代後期の集落遺跡です。集落内には、独立棟持柱（むなもちばしら）をもつ大型掘立柱建物、ガラス玉が出土した直径10ｍを測る円形竪穴住居などの大型の特徴的な建物の存在が注目されます。集落内はいくつかの溝で区画され、居住域の西側には方形周溝墓（ほうけいしゅうこうぼ）が営まれます。

令和４年度の調査では、方形周溝墓に近接する溝から、台付壺、甕、鉢、高杯が出土しました。いずれも完形に復元できることから、何らかの意図で供えられたものと考えられます。



弥生時代後期の遺構分布（京都市埋蔵文化財研究所 2022-4 に加筆）

溝内から出土した台付壺（左）、鉢（中央）、高杯（右）

弥生時代

備前遺跡（びぜん）　八幡市南山、備前　八幡市教育委員会 調査

方形の竪穴住居（上）と円形の竪穴住居（下）
（八幡市教育委員会提供）

備前遺跡は、大阪府と京都府境の丘陵西斜面、現在の国道１号線の南側に広がる集落遺跡です。

令和元年度から３年度にかけての調査では、弥生時代後期から古墳時代初期にかけての２棟の円形竪穴住居と４棟の方形竪穴住居が検出されました。これらの中には、排水溝を備えるものもみられます。出土遺物には、弥生土器以外にこの時期の南山城では類例の少ない磨製石剣の破片や鉄製やりがんなの小片などもあります。

八幡市南部の丘陵上には、弥生時代後期に北から南山遺跡、備前遺跡、西ノ口遺跡、宮ノ背遺跡、美濃山遺跡、美濃山廃寺下層遺跡と連綿と集落が営まれました。

出土した甕（左）とミニチュア土器（右）

古墳時代

立山古墳群（たつやま古墳群）　京丹後市弥栄町溝谷　（公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター 調査

立山古墳群は、竹野川の支流である溝谷川の左岸の丘陵上に立地しています。16基の古墳が確認されており、調査では14号墳・15号墳とその周辺を調査しました。

調査の結果、14号墳・15号墳ともに埋葬施設を２つずつ確認しました。上段の14号墳からは、長さ約１ｍの鉄刀と鉄鏃が、15号墳では鉄剣と鉄鏃が見つかりました。

14号墳は墳丘が流出したため、墳形は不明ですが、幅約10ｍの大きさを測り、古墳時代中期から後期頃に造られたと考えられます。15号墳も墳形は不明ですが、埋葬施設が深く残されていたことから、地山整形による平坦面の幅約12ｍほどの不整形な墳墓と考えられます。埋葬施設の構造や出土遺物から弥生時代後期後半から古墳時代前期に営まれたと考えられます。

14号墳（右）と15号墳（左）

15号墳で検出された２基の埋葬施設

古墳時代

岡ノ宮古墳群（おかのみや）　京丹後市大宮町河辺　（公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター 調査

岡ノ宮古墳群近景（南上方から）

２号墳第２主体部出土の玉類

中世の山城（岡ノ宮城跡）調査に伴い、山城の曲輪（くるわ）（平坦面）の下層から古墳を２基検出しました。いずれの墳丘も山城の造成により大きく削られていました。１号墳は、山城造成後の地震に伴う地すべりにより墳丘を大きく失っていましたが、その中央部と思われる場所から埋葬施設を１基検出しました。１号墳から一段下がったところで検出した２号墳からは、２基の埋葬施設を検出しました。第１埋葬施設からは鉄剣と鉄鏃が、第２埋葬施設からは瑪瑙勾玉（めのうまがたま）、碧玉管玉（へきぎょくくだたま）、ガラス小玉などの装身具が出土しました。副葬品の組み合わせから５世紀前葉頃に位置づけられます。

春日部遺跡（かすかべ）　亀岡市曽我部町春日部　（公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター 調査

春日部遺跡は、亀岡盆地の南西部、東西を丘陵で挟まれた狭い平地部にあります。

過去５回の調査が実施されており、古墳時代の集落跡や周囲を溝で囲まれた中世の館跡などが見つかっています。

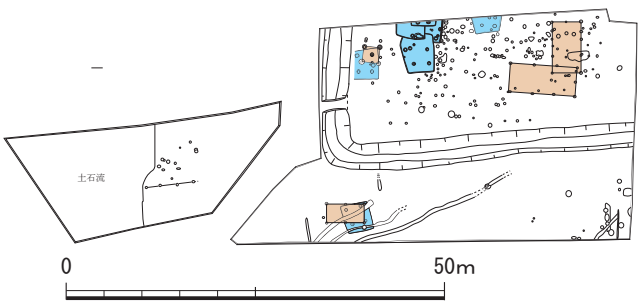
令和４年度の調査では、古墳時代後期の竪穴住居３棟、平安時代の掘立柱建物３棟が見つかりました。過去の調査を合わせると、古墳時代後期の竪穴住居が１１棟、平安時代の掘立柱建物は８棟になります。

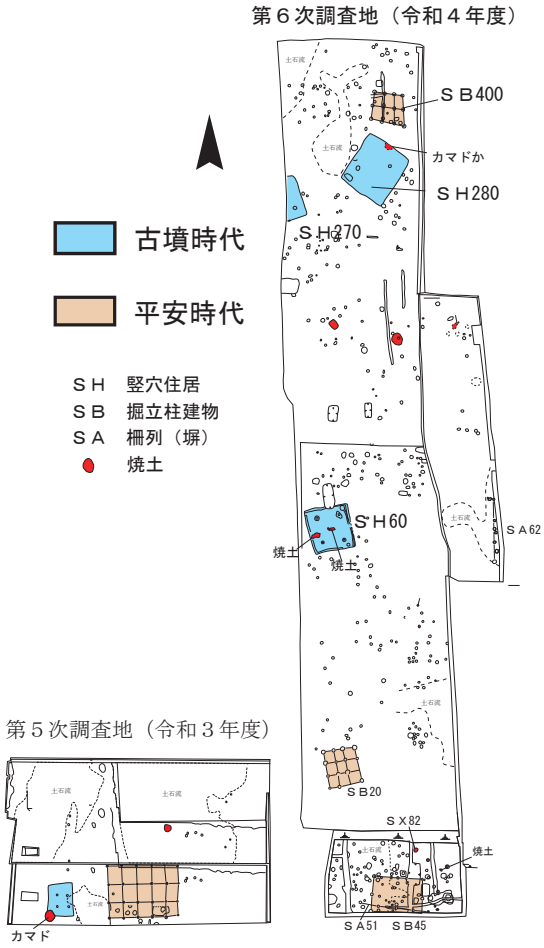
今回検出した竪穴住居は、いずれも方形で一辺５～７ｍを測り、竈（かまど）を造りつけたものがみられます。竪穴住居の１つからは、須恵器・土師器とともに製塩土器がまとまって出土しました。製塩土器は、海水を煮詰めて塩を作る土器で、塩を入れたまま生産地から出荷され、消費地で塩を取り出すために割られるものです。出土した土器の破片は非常に薄く、その細長いコップ形をする特徴から大阪湾沿岸から搬入されたものと考えられます。北摂山地を越えて塩が流通していたことがわかります。

調査の進む竪穴住居

製塩土器の出土状況（左）と出土した製塩土器（右）

竪穴住居から出土した須恵器と土師器





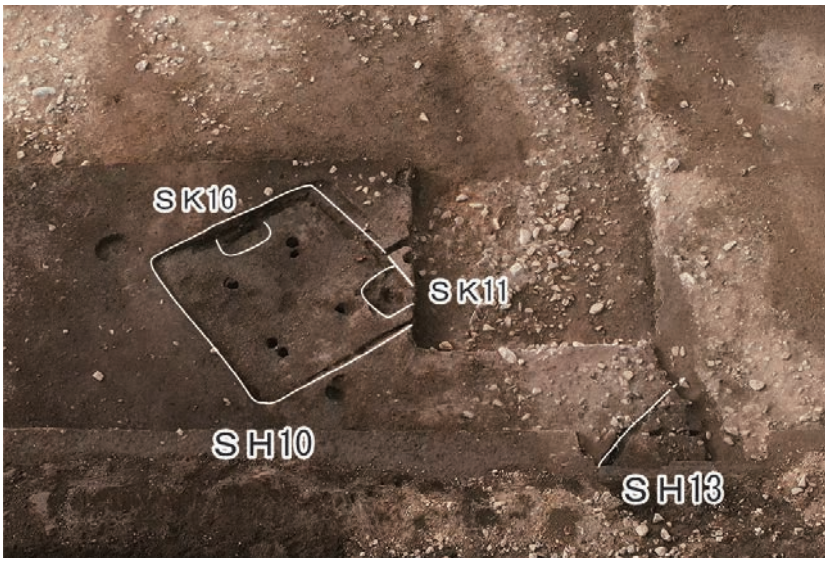
春日部遺跡平成 30 年度、令和３・４年度検出遺構配置図（1/1,000）

古墳時代

西加舎（にしかや）遺跡　亀岡市本梅町西加舎　（公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター 調査

西加舎遺跡は、亀岡市の西側を流れる本梅川の扇状地に位置する弥生時代から中世の遺跡です。

令和４年度の調査では、古墳時代の竪穴住居や自然流路に古墳時代の土器をまとめて捨てた跡（土器溜まり）などが見つかりました。土器溜まりからは、土師器甕・高杯や須恵器杯身・瑕（はそう）などが出土しました。甕は人為的に破砕されており、川辺での祭祀後に投棄されたようです。竪穴住居（ＳＨ 10）では、北西隅部付近の土坑（ＳＫ 11　貯蔵施設か）から複数個体の製塩土器が出土しました。これらは、古墳時代中期（５世紀）に大阪湾沿岸で作られた薄いコップ形のもので、当時の製塩土器の流通ルートや建物の性格を考える上で貴重な資料です。



竪穴住居等検出状況

土師器鉢（左）と須恵器杯身（右）

古墳時代

淀水垂大下津町遺跡（よどみずたれおおしもづちょう）　京都市伏見区淀水垂　（公財）京都市埋蔵文化財研究所 調査

淀水垂大下津町遺跡は、桂川下流の右岸に立地します。調査では、幾重にも重なった堆積層から弥生時代中期から明治時代まで 10 時期に及ぶ遺構・遺物が見つかりました。

古墳時代前期には、河内や近畿北部などの他地域から土器（土師器）が持ち込まれ、古くから淀川の水運を利用した広域に及ぶ交流があったことがわかります。

調査地を北から望む
（京都市埋蔵文化財研究所提供）

壺

甕

小形器台

法貴古墳群

亀岡市曽我部町法貴　（公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター 調査

56 号墳調査風景

石室内遺物出土状況

亀岡盆地南西部の丘陵上に位置する法貴古墳群は、横穴式石室を埋葬施設とする66基からなる古墳時代後期の群集墳です。

令和４年度の調査では、５基の円墳を調査し、２基の横穴式石室（56号墳の埋葬施設と墳丘が失われた横穴式石室）と奈良時代の火葬墓を検出しました。56号墳は、直径14ｍの円墳です。墳丘の裾には墳丘盛土の流出を防ぐための列石が埋められていました。石室は、ほぼ正方形（長さ2.4ｍ・幅2.0ｍ）の玄室（げんしつ）に長さ2.0ｍの短い羨道（せんどう）が付きます。このような石室は、北部九州に起源をもつとともに、南丹地域の横穴式石室の導入期の特徴です。出土遺物から古墳時代後期中頃に造られたようです。

56号墳の15ｍ東側の平坦面からは墳丘が失われた石室全長2.4ｍ・玄室幅1.6ｍの小さな無袖（むそで）の横穴式石室が見つかりました。出土遺物から古墳時代終わりから飛鳥時代に造られたと考えられます。

また、さらに15ｍ東の地点からは、奈良時代前半の火葬墓が見つかりました。『続日本紀』には、文武４（700）年に日本で初めて火葬が行われたと記されています。

56 号墳出土遺物

火葬墓検出状況

古墳時代（弥生時代、古墳時代、中世）

木津川河床遺跡（きづがわかしょう） 八幡市八幡

（公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター 調査

調査地遠景（東から西を望む）

溝から出土した弥生時代中期の甕

ベッド状遺構（手前）をもつ方形竪穴住居

溝から出土した古墳時代前期の古式土師器

木津川河床遺跡は京都市と八幡市にまたがる広大な遺跡です。調査地は、現在木津川右岸にありますが、明治初年の河川改修までは、木津川は北東1.5ｋｍの地点で淀川と合流していました。

令和３年度の調査では、弥生時代から江戸時代までの時期幅の広い遺構が見つかりました。

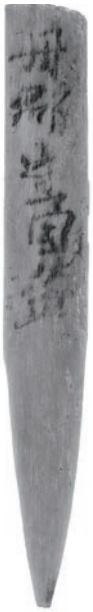
弥生時代中期の溝からは、中部瀬戸内地域の影響を受けた甕が出土しました。古墳時代前期の方形の竪穴住居と溝が見つかり、多くの土器が出土しました。竪穴住居は、ベッド状の高まりを備えつけていました。溝は、雨水の排水施設と考えられます。このほか、平安時代末期から鎌倉時代に利用された井戸が検出され、中から土器とともに曲物（まげもの）や遊戯具の毬杖（ぎっちょう）の球が出土しました。

井戸底付近、曲物検出状況

奈良時代

鶴尾遺跡（つるお）　京丹後市峰山町丹波　（公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター 調査

［七の段～五の段（七々冊九～一五如五）］



［丹郡（郷ヵ）守部国益］

九九木簡（左）
と荷札木簡（上）

写真提供　奈良文化財研究所

鶴尾遺跡は、中郡盆地北端部に位置し、丹後半島を北流する竹野川左岸の谷部に立地します。

令和３年度の調査で、奈良時代の溝や土坑などから３点の木簡と６点の墨書土器、計９点の文字資料が出土しました。木簡の一つは九の段から五の段の九九が書かれた「九九木簡」です。地方官衙に勤務する役人が、徴税管理などを行う上で、早見表として使ったものかもしれません。また、別の木簡には、「丹郡［郷ヵ］」という文字も見られ、当時、この遺跡に役所が設置されていた可能性があります。

このほか、下駄（げた）や斎串（いぐし）なども出土しています。

下駄と斎串

奈良時代～平安時代

北野台遺跡（きたのだい）　綾部市位田町　（公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター 調査

北野台遺跡は、由良川中流域右岸の沖積地に位置します。

調査では、梁行（はりゆき）2間・桁行（けたゆき）8間以上の奈良時代後期から平安時代前期の南北棟の掘立柱建物を検出しました。桁行8間以上の建物は国衙（こくが）・郡衙（ぐんが）などの官衙（かんが）などに見られます。別の地点からは、墨書のある須恵器や、円面硯（えんめんけん）も出土しており、公的な施設の存在が確実視されます。何鹿郡（いかるが）衙の推定地から西北西2kmほどの位置にあり、郷などの役所だったのかもしれません。

南北棟の大型掘立柱建物

須恵器杯蓋・杯身

黒色土器椀

墨書土器「和原」「息」

長岡京跡左京第670次 長岡京市神足

（公財）長岡京市埋蔵文化財センター 調査

784（延暦３）年に桓武天皇は、奈良の平城京から都を山背国乙訓郡長岡村に遷します。宮は、現在の行政区で向日市に、朱雀大路を挟んで配置された左京・右京は向日市・京都市・長岡京市・大山崎町にあたります。昭和29年に始まった長岡京跡の調査は、宮・左京・右京を合わせて2,490回に及んでいます。

左京第670次調査地は、長岡京左京六条二坊五町、六条大路、左京七条二坊九町にあたります。六条大路を挟んで南北の宅地の一部を調査したことになります。六条大路の南北の溝からは、それぞれの宅地から投棄された土器などの遺物が出土しました。北側の溝からは鋳物の鋳型や溶解した金属を運ぶための取鍋やふいごの羽口が出土しました。大路の北側の宅地では金属加工の工房が営まれていたようです。同じ宅地内からは、櫃と曲物を井筒の底として転用した井戸が見つかりました。

六条大路南側溝・柵列全景（東から）

井戸の井筒に転用された櫃・曲物検出状況

※この頁の遺構写真は、長岡京市教育委員会提供

工房の存在を示す鋳型、ふいご羽口、取鍋

井筒の掘形に納められた和同開珎

須恵器杯蓋・杯身

井筒に転用された櫃

奈良時代

乙訓寺（おとくにでら）　長岡京市今里　（公財）長岡京市埋蔵文化財センター 調査

上　調査地全景（左上方は現在の乙訓寺本堂）
右　講堂跡の礎石建物根石検出状況
（長岡京市教育委員会提供）

乙訓寺は白鳳（はくほう）期（７世紀後半）の創建と伝えられ、奈良時代には桓武（かんむ）天皇の実弟早良（さわら）親王が幽閉されたことで有名な寺院です。創建時の伽藍配置や規模などは明らかになっておらず、現存する建物は江戸時代元禄期（17世紀末）以降に再興されたものです。

令和４年度は、第１次調査（昭和41年）で確認された推定講堂跡の正確な位置を把握するために実施されました。礎石（そせき）建物とされていた講堂跡は、最初は掘立柱建物として建てられ、後に礎石建物に改築されたことが明らかになりました。

平安時代

平安宮主水司跡（へいあんきゅうもんどのつかさあと）・醤院跡（しょういんあと）　京都市上京区　（公財）京都市埋蔵文化財研究所 調査

調査地は、平安宮の南東部にあたり、陽明文庫本の『平安京宮城図』によると、醤油（しょうゆ）や味噌などの調味料を保管する醤院（しょういん）と飲料水や氷室（ひむろ）の管理や水にかかわる儀式を担当する主水司の両役所の境界部分にあたります。調査では、平安時代初期から前期にかけての土坑が５つ見つかりました。その内、土坑５からは、９世紀末から10世紀初めの土器が多数出土しました。その中に、中国の青磁壺を模倣して、愛知県の猿投（さなげ）窯跡で生産された美しい緑釉四足壺（りょくゆうよんそくつぼ）がありました。調査地一帯は皇室の食に関わる役所であり、皇室の食文化にかかわる貴重な資料だといえます。

土坑５遺物出土状況
（京都市埋蔵文化財研究所提供）

緑釉四足壺

佐屋利遺跡（さやり）　京丹後市峰山町新町　（公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター 調査

佐屋利遺跡は中郡盆地に臨む、竹野川右岸の段丘縁辺部に立地する弥生時代から鎌倉時代にかけての集落遺跡です。令和4年度の調査では、平安時代から鎌倉時代頃の荘園の管理などを行った居館（きょかん）跡とみられる遺構が見つかりました。居館跡は、掘立柱建物群、井戸、区画溝などで構成されています。井戸には、立派な石組でつくられたものがあります。

掘立柱建物群、井戸、区画溝などで構成された居館跡

出土遺物には、地元で造られた土師器や黒色土器に加えて、中国製陶磁器・渡来銭・滑石製石鍋など広域に流通するものがあります。中国製陶磁器の白磁皿の内面には、めずらしい葉文が描かれていました。また、建物の柱穴に銭40枚や土師器皿と短刀が納められたものがあり、建物廃絶時に地鎮（じちん）などの祭祀を行った痕跡と考えられます。このほか、井戸からは笠塔婆（かさとうば）を含む木簡（もっかん）も出土しています。

居館内に設置された石組遺構と井戸

このような状況から、今回検出した遺構群は、荘園の管理などを行った有力者の屋敷跡（居館）と考えられます。古文書に記録は残っていませんが、丹後地域にも中世の居館跡が確認できたことは大きな成果といえます。

葉文が施された中国製の白磁皿

地鎮に使われた渡来銭

室町時代～安土桃山時代

淀水垂大下津町遺跡（よどみずたれ おおしもつちょう）　京都市伏見区淀水垂　（公財）京都市埋蔵文化財研究所 調査

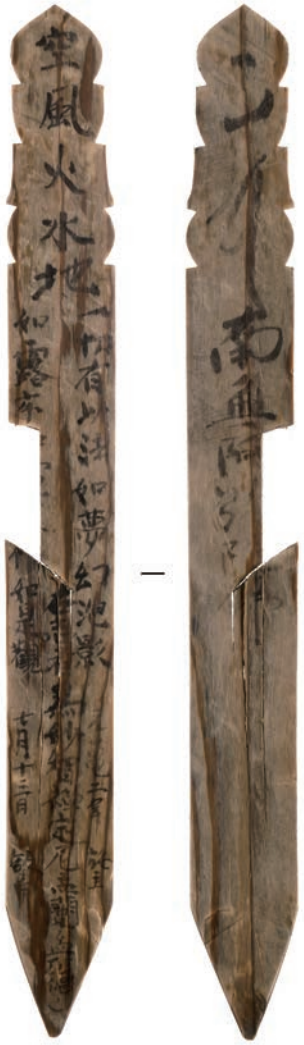
調査地は、桂川下流部右岸の河川敷にあたり、京都盆地の最低部に位置する後背湿地に立地します。かつて存在していた巨椋池（おぐらいけ）の近くでもあり、水運上、非常に重要な地点です。『日本後紀』には、桓武（かんむ）天皇が「淀津」へ行幸（ぎょうこう）したという記録があり、淀津の存在が文献史料からうかがえました。

令和3年度の調査で、古代から近世までの瓦葺き建物の存在を示す瓦類や、中世における輸入陶磁器類、鉄精錬に関する遺構・遺物など、これまで考古学的に確認できなかった「淀津」についての検討を可能とする資料を得られたことは大きな成果です。

第３面で見つかった３条の堀（北東から）
（京都市埋蔵文化財研究所提供）

今回紹介するのは、室町時代後期から安土桃山時代の堀です。幅4.3m以上、深さ約2.1m、長さ25m以上あり、15世紀代にはL字形に折れ曲がった堀、16世紀代にはT字形の堀になっていたようです。堀内からは、卒塔婆（そとば）、柿経（こけらきょう）、瓦質の灯篭（とうろう）、風炉（ふろ）といった寺院に関係する遺物がたくさん出土していることから、近くに寺院があったことがわかります。卒塔婆の五輪部分が、梵字（ぼんじ）ではなく、漢字で「空風火水地」と記されていることが特徴的です。写真の卒塔婆には元亀（げんき）2（1571）年と記されています。

瓦質の灯篭



卒塔婆
（京都市埋蔵文化財研究所写真提供）

室町時代～安土桃山時代

堀城跡（ほりじょう）　京丹後市大宮町河辺　（公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター調査

堀城跡調査前（左）と調査後（右）の全景（南から）

堀城跡は竹野川中流域の右岸、大宮町河辺の独立丘陵先端に築かれた山城（やまじろ）です。丘陵上平坦面で、曲輪（くるわ）・杭列（くいれつ）などが確認でき、調査区南端では堀切（ほりきり）と土塁（どるい）が見つかりました。土塁は堀切を掘削した際の排土を幅 3.6 m・高さ 0.6 mほどに盛って造られています。城跡は、中郡盆地と東側の谷部を結ぶ道路を見下ろす位置にあり、通行を監視するために使われたと考えられます。

江戸時代

女布遺跡（にょう）　舞鶴市女布　（公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター 調査

調査地近景（南側上空から）

女布遺跡は、西舞鶴地区南西部のなだらかな谷平野に位置する弥生時代から続く集落遺跡です。谷の中央部の調査区からは、20点以上の木簡が出土しました。判読可能な資料には、「百石三升」などの量（かさ）や「勘左衛門」の人名などを記すものがあります。時期の特定は難しいですが、字体や内容から江戸時代に属するものと考えられます。村の中に設けられた公的な施設の存在がうかがえる資料です。

木簡

江戸時代

園部城跡（そのべじょう）　南丹市園部町小桜町　南丹市教育委員会 調査

園部城跡は、元和（げんな）7（1621）年に完成した園部陣屋を前身に、幕末に大規模な改修が申請され、明治2（1869）年に完成した城です。その後、明治4（1871）年に廃藩置県で政治的な役割を終えた園部城は、官有地や民間へ払い下げられ、城の中心部は学校の敷地などとして利用されます。

今回の調査では、園部陣屋の武家屋敷内に設けられた庭園に関連する遺構や石組溝など、園部陣屋初期の可能性のある遺構や遺物が見つかっています。

庭園遺構（礫敷）検出状況（南から）
（南丹市教育委員会提供）

出土遺物（左：景徳鎮青花小皿（けいとくちんせいか）、中央：志野向付（しのむこうづけ）、右：織部向付（おりべ））

江戸時代

山家陣屋跡（やまがじんや）　綾部市山家　綾部市教育委員会 調査

綾部市広瀬町の上林川と由良川に挟まれた尾根に立地する山家陣屋跡は、谷氏を当主として天正10（1582）年から幕末まで存続した山家藩関連の城館群です。山家陣屋跡の藩庁跡北西辺の石垣は、垂直に近い勾配で低い石垣を階段状に積み上げて石垣としており、天正10年頃の石垣と評価できます。また、家臣団の屋敷地も区画や遺構がよく残っています。

戦国時代の城館から近世の陣屋への変遷過程や、近世の陣屋の全体像がわかるとても貴重な事例です。

藩庁跡北西辺の石垣
（綾部市教育委員会提供）

出土遺物（左：備前徳利、右２点：肥前系陶磁器）

淀城跡（よどじょう）

京都市伏見区淀池上町

（公財）京都市埋蔵文化財研究所 調査

淀城は、元和9（1623）年の伏見城の廃城に伴い、淀君が住まいしたとされる淀古城（よどこじょう）の南側に築かれました。同年淀藩が立藩され、歴代藩主には譜代（ふだい）大名が任ぜられました。また、大坂街道と淀川交通の中継点という立地から淀宿が設置され栄えます。

京都盆地南西部、盆地からの河川の出口付近にあたり、桂川・宇治川・木津川の砂礫が形成する低地に位置するため、大雨時には増水しやすく河川氾濫（はんらん）の影響を非常に受けやすい状況にありました。

調査地は、東曲輪（くるわ）にあたり、江戸時代後期の家老屋敷の礎石（そせき）建物群がみつかりました。建物群は、砂による整地層をはさんで上下2面から検出されました。改築にあたって洪水対策として屋敷地のかさ上げが行われた時には、軟弱基盤に対応するため、関西では類例を見ないろうそく基礎が採用されていました。

淀城は、慶応4（1868）年の鳥羽・伏見の戦いで戦場となります。調査では、戦いに伴う火災痕跡や罹災（りさい）した瓦・陶磁器を確認しており、甚大な被害を受けていたことがわかります。

18 世紀半ばから後半の礎石建物

18 世紀後半から 19 世紀後半の礎石建物

焼け落ちた瓦（上）と、火を受けて変色した植木鉢（右）

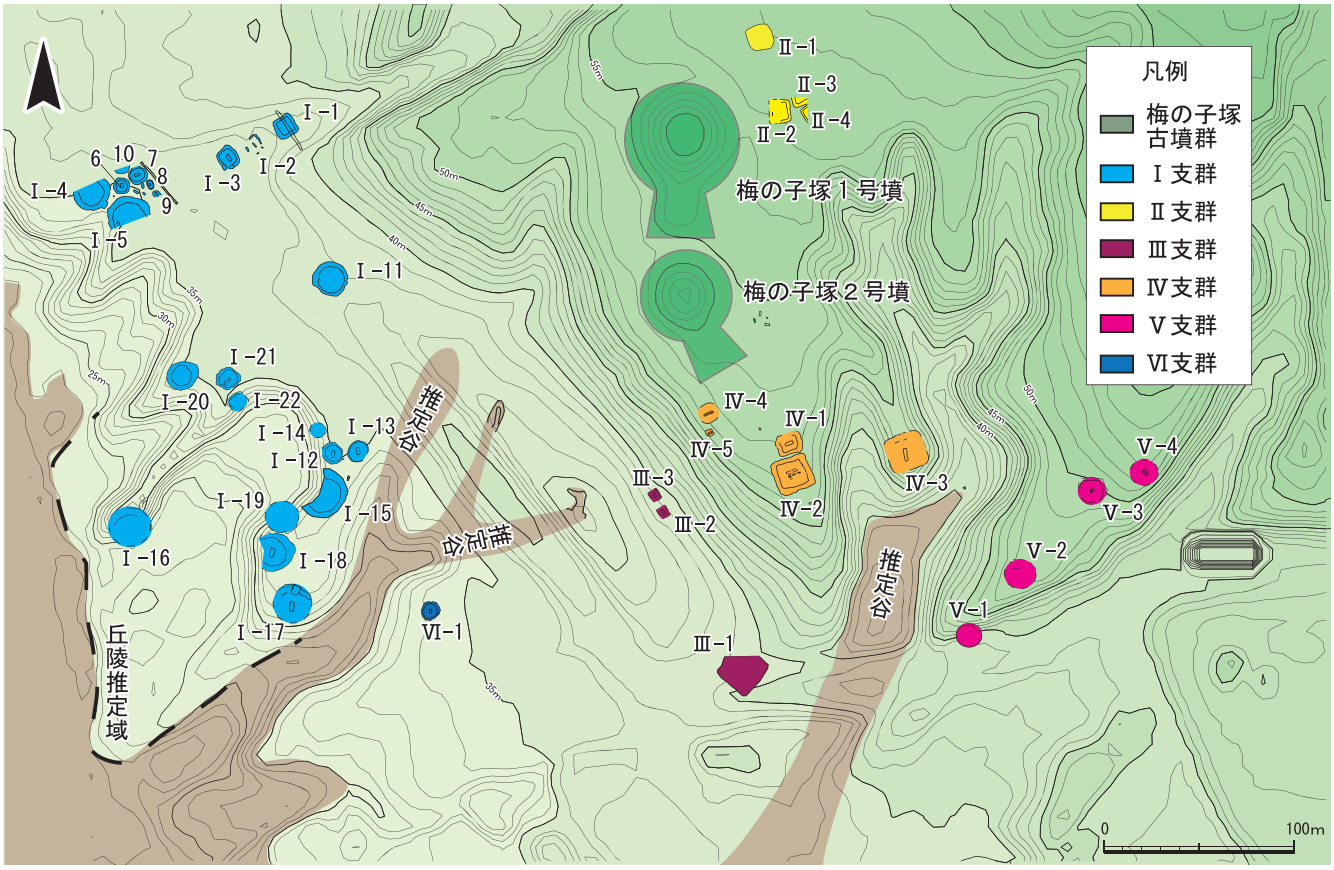
ろうそく基礎

※この頁の遺構写真は、京都市埋蔵文化財研究所提供

企画展

芝山古墳群 200年つづくお墓

芝山古墳群は城陽市東部の丘陵上に広がる古墳群です。平成27年度から令和2年度までの調査で、古墳時代前期から後期にかけて37基の方墳や円墳が見つかっています。同じ丘陵上には古墳時代前期に造られた梅の子塚1号墳（全長87mの前方後円墳）、2号墳（全長65mの前方後円墳）があります。宇治市南部から城陽市にかけて広がる南山城最大級の古墳群である久津川古墳群の富野支群を構成する古墳群です。



古墳分布図

●はじまりのお墓 Ⅳ−3号墳

梅の子塚古墳群より南東に位置するⅣ−3号墳は、一辺約16.8ｍの方墳と考えられます。周溝の中から古墳時代前期後半の壺形埴輪が見つかりました。この壺形埴輪の年代から、これまで梅の子塚古墳が富野支群で最も古い古墳と考えられてきましたが、Ⅳ−3号墳がより古い古墳であることが分かりました。埋葬施設からは、鉄斧（てつおの）や曲刃（きょくじん）鎌（がま）、竪櫛（たてぐし）などが出土しました。

芝山古墳群でもっとも古く造られたⅣ－３号墳

Ⅳ－３号墳出土の壺形埴輪

Ⅳ－２号墳の南から見つかった埴輪棺

埴輪棺に使われた円筒埴輪

●輝く鏡と埴輪棺

Ⅳ−2号墳からは玉類と銅鏡、Ⅳ−4号墳からは銅鏡の破片が見つかりました。古墳の周辺からも銅鏡や石釧（小片）が見つかっており、付近に別の古墳があった可能性が考えられます。八幡市ヒル塚古墳や城陽市西山2号墳から文様が似た鏡が見つかっています。また埴輪を棺として使用したお墓もⅣ−2号墳の近くから3基見つかっており、埴輪の年代から古墳時代前期末ごろと考えられ、梅の子塚1・2号墳と近い時期に造られたと考えられます。

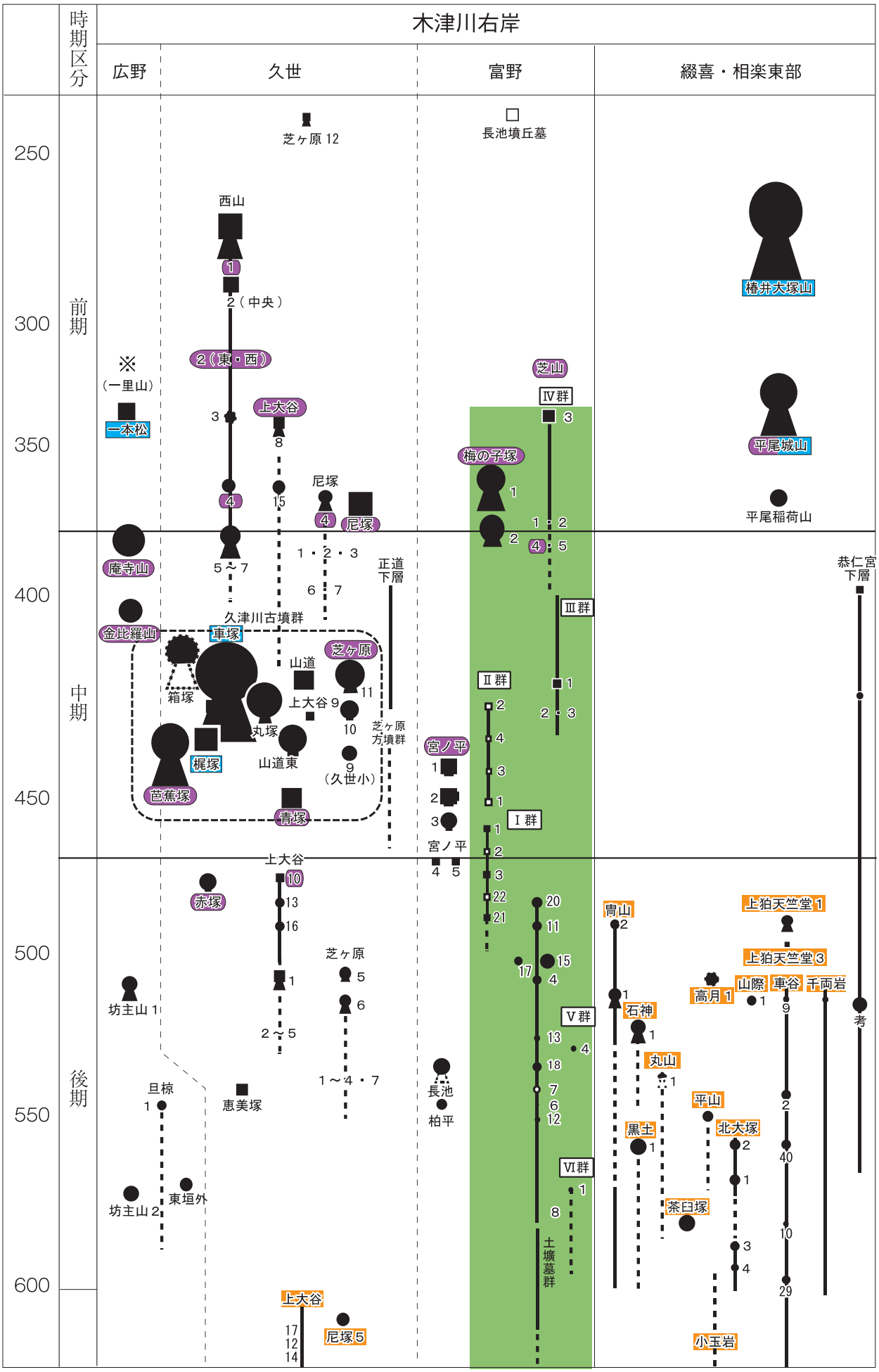
鏡が見つかったⅣ－２号墳（右側の方墳）

Ⅳ－４号墳出土の方格規矩鏡

八幡市ヒル塚古墳出土の
方格規矩鳥文鏡
（八幡市教育委員会蔵・府暫定登録文化財）

Ⅳ－２号墳出土の対置式神獣鏡

城陽市西山２号墳第２埋葬から出土した
四獣形鏡（上）と石釧（右）
（同志社大学歴史資料館蔵）



群集墳の継続時期　：横穴式石室を持つ古墳（群）　：竪穴式石室を持つ古墳　：粘土槨を持つ古墳

白抜きは時期不確定、破線は墳形が不確定なもの　※：墳形、規模とも不明（古墳の可能性があるものを含む）

木津川右岸域における古墳編年図

●南山城初の蛇行剣（だこうけん）発見

梅の子塚2号墳の南方、Ⅲ－２号墳の埋葬施設からは、刀身が蛇のように曲がった蛇行剣2振りのほか刀子と臼玉・鉄鏃が見つかりました。鉄鏃から古墳時代中期中頃のお墓と考えらます。

蛇行剣は、府内では綾部市奥大石2号墳と南丹市城谷口2号墳から1本ずつ見つかっていますが、山城地域での出土は初めてでした。

Ⅲ－２号墳蛇行剣出土状況

府内出土の蛇行剣

●変化する古墳の形

Ⅰ－20・21 号墳は円墳と方墳が隣り合って見つかりました。埋葬施設は見つかりませんでしたが、周溝から出土した土器から2つの古墳は、後期はじめのほとんど同じ時代に造られたことがわかりました。

このように芝山古墳群では、古墳時代前期から後期のはじめまでは方墳を造り、後期になると小型の方墳から円墳へ古墳の形が変わります。このような変化は城陽市上大谷古墳群や木津川市上人ヶ平（しょうにんがひら）古墳群でもみられます。久津川車塚古墳に葬られた大首長が地域の首長を治めていた時代から、ヤマト政権が直接小地域を治めるようになった時代への変化を反映しているという説もあります。

隣り合う円墳（Ⅰ－20 号墳）と方墳（Ⅰ－21 号墳）

中期後半の方墳（Ⅱ－２号墳）に
供えられた甕（城陽市教育委員会蔵）

●横穴式石室を造らない

山城地域では、古墳時代後期になると横穴式石室を持つ古墳が造られます。ミニチュアの土師器や須恵器・玉類など多くの副葬品が見つかった木津川市上狛天竺堂（かみこまてんじくどう）Ⅰ号墳は、南山城で初めて横穴式石室を採用した古墳です。芝山古墳群では、各地で横穴式石室が造られるようになる時期になっても、墓壙（ぼこう）に木棺を埋める埋葬方法の古墳が造られ続けます。芝山古墳群を造った人々は、何らかの理由で、横穴式石室を造らなかったと考えられます。

古墳時代後期の円墳（Ⅰ－12～15号墳）

木棺の小口部分の仕切られた空間に
供献された須恵器（Ⅰ－17号墳）

Ⅰ－17号墳出土遺物

豊富な副葬品をもつＩ－18号墳

Ｉ－18号墳出土遺物（須恵器、土師器、土玉、鉄刀、鉄鏃など）

参考　南山城最古の横穴式石室
をもつ上狛天竺堂１号墳出土品
（木津川市教育委員会蔵）

Ｉ－18号墳と同形のミニチュア土師器（上）
とガラス玉などから構成される装身具（右）

●古墳のおわり

古墳時代末期になると芝山古墳群では、直径5m未満の楕円形の古墳を最後に古墳が造られなくなり、それまで長い間お墓として利用されてきた丘陵が短期間のうちに集落として利用されるようになります。新しい時期に造られた円墳は、お墓としての認識があったのか古墳を避けて住居が造られますが、古い方墳は壊されて土地整備が行われました。その後、奈良時代には官衙的な配置の建物群を含む100棟以上の掘立柱建物が造られる集落へと変わっていきます。

芝山古墳群の調査では、古墳時代前期から後期にかけて限られた範囲で古墳が継続的に築造されていることがわかり、200年間にわたってお墓が変化する様子を知ることができました。

芝山古墳群から木津川を望む

古墳と奈良時代の建物群

展　示　遺　跡　位　置　図

1. 平遺跡
2. 立山古墳群
3. 霸尾遺跡
4. 佐屋利遺跡
5. 堀城跡
6. 岡ノ宮古墳群
7. 日吉ヶ丘遺跡
8. 女布遺跡
9. 北野台遺跡
10. 山家陣屋跡
11. 園部城跡
12. 西加舎遺跡
13. 法貴古墳群
14. 春日部遺跡
15. 平安宮主水司跡・醤院跡
16. 大藪遺跡
17. 乙訓寺
18. 長岡京跡左京第670次
19. 淀水垂大下津町遺跡
20. 淀城跡
21. 木津川河床遺跡
22. 備前遺跡

A. 芝山古墳群
B. 西山2号墳
C. ヒル塚古墳
D. 上狛天竺堂1号墳

「発掘された京都の歴史 2023　芝山古墳群」展示図録

発行日　令和5年8月5日

編集・発行　公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

〒617-0002　向日市寺戸町南垣内40-3　TEL.075-933-3877　Fax.075-922-1189

ホームページアドレス　http://www.kyotofu-maibun.or.jp

KYOTO ARCHAEOLOGY CENTER

2,500